病院図書館　2009;29(3):131-132

特集　魅力ある図書館（図書館自慢）

見学記番外編

会誌編集部

■アスタルテ

アスタルテ書房にたどり着くのは至難の業である。初めての人は到底たどり着けまい。なぜなら看板がない。しかも、さえないアパートの2階にあり、郵便受けの札を頼りに探さなければならない。やっとの思いでたどり着いてもまだまだ油断はできない。重い鉄の扉を開けて、入り口で靴を脱がなければならない。靴を脱いで店内に入ると壁一面に本が所狭しと置かれている。

何故か違和感を感じた。何故か誰かに見られているような感じがする。数分たち、その違和感が判明した。本に見られているのだ。本達がひそひそと客の品定めをしている、そんな感じがする。ここでは客よりも本の方が立場が上である。この客は大切に扱うだろうか、内容を理解するであろうか、合格の烙印を押されたものだけが本を買うことができる。そんな思いを抱きながら会計をしてもらう。まるで嫁をもらう婿のようである。だとすると、店主は父親といったところか。店主の顔をチラッと伺うと、愛想よく買った本にまつわる話を笑顔でしてくれた。ほっと胸を撫で下ろす。

店内はそんな父親である店主が集めた自慢のコレクションがずらりと並んでいる。ここは書店で本を物色するというよりも、個人の書棚をみていると言った方が近いかもしれない。幻想文学や美術書の類いが行儀よく並んでいる。澁澤龍彦、種村季弘のサイン、金子國義の作品も飾られている。シュールレアリスムが好きな方ならきっと気に入る空間に違いない。ただし、無事にたどり着けたらの話である。　（若杉　亜矢）

【アスタルテ書房】
住所：京都府京都市中京区御幸町通三条上る丸屋町332
営業時間：12:00～19:00
定休日：木曜
電話：075-221-3330

■恵文社一乗寺店

商品の配置はある程度利用者の行動を考えて行われている。そのためどこのお店に入っても途方に暮れてしまうことはまずない。では書店における本の配列はどうだろうか。

恵文社一乗寺店は“テーマごとに本を並べていること”をその魅力のひとつとして持っている。

雨降りの月曜日にもかかわらず開店直後から常に10人程度の来店者がある。店内はこげ茶色の床と什器でしつらえてあり、書店にしてはかなり暗い。とはいえ本は読める明るさだ。間口が広く奥行きが少ない作りで、店の1/3を東西に分け、西側に洋服や生活雑貨を、東側には文房具などの雑貨を置き、その奥に展示コーナーを設けている。雑誌や絵本、ガイドブックなどは背の高い本棚で仕切られており、これから紹介する一般書籍をおいた空間とは切り離されている。

本棚は間口に面した窓以外の壁一面にあり、背の丈位の本棚や平積み用の台はフロアに配置されている。店内が多少暗いことと書籍の分類を示すサインがないこと以外は普通の書店と変わりがないように思える。

まずはデザインに関する本棚から始めた。上

から下までひと通り見て平積みを眺めていると右隣の平積みに目がいく。怖い絵ばかりを集めた本がある、この本は美術関連の本棚の平積みだ。ここからさらに心理学→医療書→健康書→食べ物という配列になっており、健康書や食べ物の本棚は西側に作られた洋服や生活雑貨のコーナーにつながっていた。

自然に関する書籍を集めた本棚には、懐かしい本、知らない本、テーマが違わないかな？といった本が置いてある。それらは私の記憶を呼び起こし、想像をたくましくさせる。

どこからでも入ることができてどこへでも行くことができ、みんなが同じところにたどりつくことはできない。不思議な本棚を作りだしている書店だ。　（寺澤　裕子）

【恵文社一乗寺店】
住所：京都市左京区一乗寺払殿町10
営業時間：10:00～22:00
定休日：年末年始を除き基本的に年中無休
電話：075-711-5919
ウェブサイト：
http://www.keibunsha-books.com/

■三月書房

まず一歩、店内に足を踏み入れた感想は「…？古本屋さん!?」。小さなお店に高く隅々までぎっしり、所狭しと本が並べられていて、本当にまるで小さな“古本屋”に入ったよう。

“古本屋”の雰囲気が漂うのは、恐らく本の並べられ方だけではなく、品揃えもあるかもしれない。

一般的な“本屋”さんのように「新刊本」や「売れ筋本」という書籍はほとんどナイ。もちろんPOPのようなハデな演出もない。そこにある1つの資料を手に取れば周りの本も気にならずにはいられないという“仕掛け”のみ。つまり隣にある本が何かしらお互い関連づいているのだ。（新刊が全くない訳ではなく、新刊の方がひっそりと隅っこに存在していたことがすごく印象的だったのはいうまでもない。）

また見学にうかがった日、外国の研究者の方だろうか、店主の方にしきりに「こんな資料はないか」と英語で話されていた。モチロン、店主の方も英語で答えられていた。きっと「この書店ならあるだろう」と思われたにちがいない。私でもどこの本屋を探しても見つからないような資料でもここならあるかもしれない、と思わせてくれる、本当にそんな書店。

一度訪れてみてください。きっとお店が「広く」感じられるので。　（松尾　知香）

【三月書房】
住所：京都府京都市中京区寺町通二条上ル西側
営業時間：11:00～19:00（平日）
　　12:00～18:00（日祝休日）
定休日：火曜日
電話：075-231-1924
ウェブサイト：
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/sangatu/